



Title	Analytical Studies on MDMA and Its Related Compounds in Biomaterials by HPLC Methods
Author(s)	中村, 心一
Citation	(2008-03-19)
Issue Date	2008-03-19
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/20729">http://hdl.handle.net/10069/20729</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-27T21:00:59Z

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第180号	氏名	中村 心一
学位審査委員	主査	中島 憲一郎	
	副査	中村 純三	
	副査	黒田 直敬	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は最近社会的に問題となっている合成麻薬 MDMA 及び MDA の乱用の危険性について、分析化学及び法中毒学的立場あるいは薬物動態学的見地から検討するもので、その目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法</p> <p>MDMA 関連化合物の超高感度蛍光及び化学発光検出 HPLC 法を開発し、それをラットの尿試料、ヒトの血液及び毛髪試料に適用する手法は目的にかなっている。また、開発した方法の実用展開を図るために、麻薬更生施設に入院中の患者毛髪試料を分析し、問診と実際の定量による使用薬物の相違を比較する点も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で開発した新規分析法は数～数十フェムトモルの MDMA 類を検出可能な超高感度な方法であり、ラット尿及びヒトの血液や毛髪の定量に十分適用可能であった。また、麻薬更生施設入院患者の毛髪分析により、その有用性を確認するとともに、患者が自覚しないで違法薬物を摂取していることを明らかにし、薬物相互作用等のリスクを警鐘することができた。これらの結果は分析化学あるいは法中毒学研究の発展に大いに寄与するものである。</p>			
<p>以上のように本論文は薬学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（臨床薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			